詳細は二次元バーコードから

大阪・関西万博

香川県主催催事「アートする里海 -KAGAWA-」のステージイベント・里海トークに登壇

■ アートする里海 -KAGAWA-　里海トーク

■ 9/27 スペシャルトークイベント

令和7年9月26日から29日にかけて開催された大阪・関西万博のEXPO2025テーマウィーク「地球と未来の生物多様性ウィーク」では、香川県主催催事“アートする里海-KAGAWA-”（会場：ギャラリーWEST）のステージイベント「里海トーク」に、香川大から経済学部・原直行教授、創造工学部・末永慶寛教授、瀬戸内圏研究センター・中國正寿特命助教の3名が登壇しました。原教授は、「観光振興・環境保全・漁業振興の3つの同時実現を目指す香川の里海づくり」をテーマに、地域が目指す姿を紹介。末永教授は、藻場の再生によって豊かな海を取り戻す取組を説明し、中國特命助教は、瀬戸内海で増加する海ごみ問題を取り上げ、かがわ海ゴミリーダー森田桂治氏と共に現状や課題、大学の取組について報告しました。また27日には、「藻場から始まる資源あふれる豊かな瀬戸内海の創生」をテーマに、香川県知事、県漁連会長、香川大学上田学長、末永教授によるスペシャルトークが行われ、会場は多くの来場者でにぎわいました。

瀬戸内国際芸術祭

瀬戸内仕事歌&～瀬戸内源平合戦絵巻～オペラ『扇の的』ダイジェスト版を公演

令和7年10月19日、四国村ミウゼアム内の小豆島農村歌舞伎舞台で、瀬戸内国際芸術祭2025香川大学作品として、若井特命教授が芸術監督・演出・プロデュースを務め、「瀬戸内仕事歌&～瀬戸内源平合戦絵巻～オペラ『扇の的』ダイジェスト版」が上演されました。

第1部「瀬戸内仕事歌」は石切り唄保存会や讃岐民謡保存会、阿屋唐十郎氏、本学学生らが出演し、教育学部・古草教授の描いた郷土の仕事風景を背景に、伝統の仕事歌と作業を再現。屋島の麓に奏でられた古の音色が観客を魅了しました。開演前には「ふれ太鼓」が披露され、開演時には讃岐楽鼓衆による「時の太鼓」が鳴り響き、音の演出などが五感を刺激しました。

第2部「オペラ『扇の的』」は「祇園精舎の風の声～」の合唱で開幕。県内声楽家や教員が雅な衣装で源平合戦を熱演しました。今回の公演は、地域文化の継承と発信の強化、参加型芸術活動の拡充、地域発オペラの世界発信という大きな効果をもたらし、地域の方々の協力で大盛況のうちに幕を閉じました。

《 2025年 JR四国と香川大学の共同研究による連携事業 》

JR四国 × 香川大学

さぬきの文化探訪

第4弾 さぬき市志度へ日帰り旅

源内ゆかりの地を歩き、歴史にふれる

11月22日、香川大学とJR四国の連携企画「さぬきの文化探訪」ツアーを開催しました。本ツアーは、地域の賑わい創出、魅力発見、文化振興を、大学ならではの“教育・人材育成”の視点から推し進めることを目的に実施しています。今回は、江戸時代の奇才・平賀源内の生誕地であるさぬき市志度を訪れました。

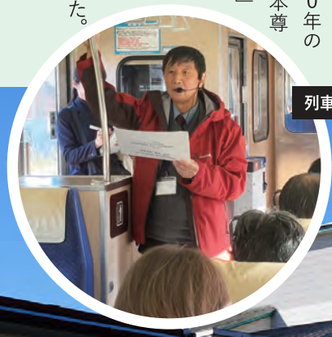
志度駅で列車を降り、歴史を感じる街並みを歩きながら、まず初めに訪れたのは平賀源内旧邸。案内してくださったのは、なんと源内のご子孫である7代目当主・平賀一善さん。源内が過ごした生家や薬草園で、往時の息吹を体感しました。学生スタッフも、旧邸の周辺にある源内の銅像やゆかりの灯籠を前に、事前に学んだ知識を活かして熱心に解説しました。続けて訪れた平賀源内記念館では、現存するエレキテル等の貴重な資料を見ながら、砂山名誉館長による解説を聴き、源内の多彩な業績に驚きとても学びが多く、面白かった」と好評でした。

志度寺

私たち学生もお手伝い！

平賀源内旧邸

平賀源内記念館



列車内特別講義

金田先生（→P.01）がエレキテルから専門の南海トラフ地震発生確率まで幅広く解説

旬彩料理　以志や

昼食は記念館公認の「源内御膳」